

# 山崎たつえ通信

第 44 号 (27 年 11 月 25 日) (前市議会議員) 無所属

山崎たつえ 390-0851 松本市島内 6595 f a x 0263-87-7055

ホームページ <http://www.tatsue.jp/> 「日々雑感」

菅谷市政は 10 年来、健康を柱にして走り続けている。今号は、県の算出した健康寿命のデータから松本市の実態を述べてみる事とする。

県は 27 年 4 月県下の主要市町村の健康寿命を公表した。県からデータを取り寄せ、19 市について

比較検討した。

松本市の健康寿命は男性が高い方から 9 番目で 79.32 才、女性は 17 番目で 83.33 才であり、県内順位の健康寿命の結果は良いとは言えない。

## 松本市は「健康ではない期間」が (19 市中) 「長野県で一番長い」。なぜだ!!

非健康期間とは「要介護 2 以上の期間」としている (表参照)。

ところで、長野県は健康寿命年齢 (0 才が、健康で何才まで生きられるか) と同時に非健康の期間も公表した。そこで山崎は県の数値から、非健康寿命つまり、健康でない期間の数値を比較してみた。驚いた事に松本市は 19 市中で一番、非健康な期間が長いのである。前述したように菅谷市政は 10 年来健康寿命延伸を目指している。健康寿命延伸の狙いは「一日も長く健康な時で過ごしたい。健康ではない期間を短縮したい為」との願いである。

健康政策を柱とし続けたのに、健康ではない期間が、長野県で一番長いのは、どういうわけであろうか。大至急調査する必要があるのではないか。

市民から「松本市は健康・健康といていたのに…そんな実態とは…」との声が聞こえた。



### 非健康寿命期間 (年月) の 19 市の数値 (次頁表 1・表 2)

それでは数値を追ってみる事とする。

次頁、表 1 は 19 市の女性の非健康寿

命期間であり、表 2 は男性の非健康期間である。

松本市の女性の非健康期間は 4.16 年であり、男性のそれは 1.97 年である。

松本市の非健康寿命期間が、他市に比し、飛びぬけて長い。

女性の非健康期間の最も短いのは伊那市で 2.56 年 (松本市と 2.04 年の差)、男性の非健康期間の短い市も伊那市で 1.25 年 (松本市と 0.72 年の差)、市長は、一日も早く、長野県一「非健康期間」の短い伊那市、須坂市へ職員を派遣し、調査検討したらどうか。多くの人は長い年月、健康でない期間 (非健康) を過ごす事を好まないだろう。

非健康期間が短期になる妙薬があれば市民は嬉しいはず。

非健康寿命期間としている  
「要介護度 2 以上」の人の県内 15 市での松本市の位置は 8 番目であり、県内で特に多いわけではない。

順位	表 1	女性非健康期間年
1	松本市	4.16 年
2	大町市	3.91
3	安曇野市	3.75
	4-7 省略	
8	飯田市	3.41
9	長野市	3.34
14	塩尻市	3.15
	15-16 省略	
17	須坂市	2.77
18	駒ヶ根市	2.72
19	伊那市	2.56

信毎 (27.11.17) は「松本市の要介護、要支援認定者が増加」と報道した。そこで、県内各市の非健康状況にある人（要介護 2 以上）の割合を調べた。

表 3 は人口千人に対する要介護 2 以上の人の数値である。（この調査は政府統計「介護保険事業状況報告」より山崎が算出。4 市は広域での実施のため算出不可）。

■ 菅谷市長は「健康寿命について松本市は先取りした形で施策を進めてきた。…ますます世界を引っ張る位の気持ちで自信をもって取組を進めていかなければならないと思っている（信毎 27.11.17 日）」と語っている。しかし、「県下一健康でない期間の長い松本市の姿」を人は、又、他の自治体は賛同し、モデルとするであろうか。

表 3 人口千人対要介護 2 以上人数	
飯山市	35
上田市	32
飯田市	32
佐久市	30
東御市	30
安曇野市	30
中野市	28
松本市	28
駒ヶ根、小諸省略	
長野市	25
千曲、伊那、須坂省略	
塩尻市	21

順位	表 2	男性非健康期間年
1	松本市	1.97 年
2	東御市	1.82
3	安曇野市	1.78
4	上田市	1.71
	5-9 省略	
10	長野市	1.58
11	諏訪市	1.54
	12-16 省略	
17	須坂市	1.3
18	小諸市	1.25
19	伊那市	1.25

### 素敵に生きる女性たち

松本市の高齢化率は 26 年度 26.0%である。松本市は 4 人に 1 人強が 65 才以上といえる（高齢化率とは 65 歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合）。しかし、最近、素敵な生き方をしていいる高齢者も多く見かけるようになった。

全国的には 82 歳の黒柳徹子さん。



黒柳さんは紅白歌合戦の総合司会をする事になった。又、74 才の田島陽子さんもすごい。27 年 12 月 12 日、田島陽子先生のコンサートがあった。田島陽子先生は男女平等論、女性論で有名な方であり、大学教授、参議院議員などを歴任。60 代半ばから歌の勉強を初め、当日は素晴らしい歌を聞かせて下さった。先生には多くの著書もあるので、私はその一冊を購入させて頂き、先生にサインをして頂いた。写真はその時の写真である。可愛い御嬢さんと言う感じ。「これから 20 年、95 才まで元気に生きてます」とおっしゃっていた。



ご支援頂きました皆様、いかがお過ごしでしょうか。いつも皆様に感謝しています。今年も皆様にとって、良き年でありますよう…祈念いたします。

追記: 市民の方から「適切な、厳しい指摘をする山崎さんのような人が松本市には必要です。これからも継続してやってほしい」との手紙が届きました。

## 嬉しいお知らせが… その為追記しました。

新年になり、松本市に嬉しいお知らせがあった。松本市が県下の自治体で唯一「人口増となった」との事。市長は「人口増の原因を調査する(28年1月20日 市民タイムス)」と発言している。原因を調

査する事は大切な事。原因が判れば、更なる発展が期待できる。

しかし、市長は、自分に都合の悪い事は一切調査しようとも、数値を明らかにしようともしないように思える。残念であった。

(山崎が調査を続けた健康政策についてみる。) **市長の健康政策のその後**——国民健康保険税、医療費、介護保険料に苦しんでいる市民は、それら費用の低減を期待し、市長を選んだ。市長も健康・健康寿命延伸を目指してきた。その市政のあり方は素晴らしいと思った。しかし、実績が上がっていない。調査すると市民の願いは12年間になんかえられておらず、且、有賀市政時より悪化していた。山崎は議会で、調査しては、健康に関して何点か指摘してきたが、他市を調査し、改善する姿が見えなかった。指摘した具体例を再記する。

★県下19市中、国民健康保険税が一番高額。医療費は高い方から4番目。介護保険料に至っては、県内の全市町村の中で一番高額(26年3月議会発言)。介護保険料、国民健康保険料の基盤は医療費である。そこで10年来、医療費の一番低い茅野市、佐久市へ職員を派遣するように2回提言した。しかし、市は調査しようとしなかった。

★健康を計る物差しに**平均寿命**がある。松本市の男性のそれは11位、女性は12位である。全国上位50位以内に県内の10市がランクされているが、松本市は、当然、そこにも出ていない。

★前述した健康寿命に至っては**健康寿命の県内順位も半ばであるが、それ以上に**

**問題なのは「非健康寿命期間」である**(数値次頁)。(注: 在職中、「なぜ、高額なのか」調査し続

けていたが判らなかつたが、介護保険料を長野県で一番の高額にしている原因ではないかと推測した。)

上記の如く実態のないのに、あたかも実績が上がっているかの様に「**世界健康首都会議**」を開催し「**松本の健康政策を世界に発信**」と発言したり、台湾やドイツに健康政策を宣伝にいたりしている。

先日、非健康寿命年齢の調査結果を見た市民は私に「市長の健康宣伝に、市民は『松本市の健康は長野県一良い』と思わせられている」

## と語った。

参考:平成 22 年(2010 年)健康寿命(0 歳、市町村別) 27.4.17 日長野県健康福祉部資料				
(数値は年)	男性		女性	
	健康寿命	非健康寿命	健康寿命	非健康寿命
長野市	80.08	1.58	84.39	3.34
松本市	79.32	1.97	83.33	4.16
上田市	78.92	1.71	83.19	3.7
岡谷市	79.96	1.42	84.79	3.15
飯田市	78.47	1.58	83.97	3.41
諏訪市	79.85	1.54	84.96	3.2
須坂市	78.22	1.3	83.7	2.77
小諸市	79.27	1.25	84.26	3.17
伊那市	80.18	1.25	84.59	2.56
駒ヶ根市	78.57	1.52	83.43	2.72
中野市	78.83	1.51	83.52	3.2
大町市	78.66	1.69	84.26	3.91
飯山市	78.48	1.65	83.48	3.47
茅野市	79.76	1.61	84.34	3.27
塩尻市	80.3	1.49	84.93	3.15
佐久市	79.38	1.71	84.03	3.52
千曲市	78.4	1.51	84.15	3.13
東御市	80.1	1.82	82.55	3.7
安曇野市	78.95	1.78	83.82	3.75

市長の仕事は健康ばかりではない。多岐にわたっている。良いことも沢山して下さった。しかし、私が健康に視点を当て指摘するのは、市長が、健康を柱として走り続けているのに、実績が見えないからである。真実を市民に知らせないからである。又、他自治体の良い事例に対しても調査しようとしてもしないからである。

悪い点は素直に認め、原因を調査し、市民に事実を知らせ、適切な対策を立てる事が大切ではないか。

参考:市民歩こう運動も実を結んでいない。市長は 20 年度、全庁挙げて市民歩こう運動を提唱した(20 年 6 月議会発言)。調査したが、結果の見える科学的データがなかった。様々なイベントに「歩く企画も入れました」程度のもの。市民の暮らしのあり方を変えるのが行政のする事。イベントに参加させる位では市民の暮らしは変わらない。

市民の生活の中に、歩く事を習慣化させるにはどうしたら良いか。私は埼玉県東松山市を視察し、議会で提言した。東松山市の市長は自らも歩き、市民の 6%が実行した。

その結果、同市の翌年の国民健康保険負担額が 2 億 7000 万円減少した。結果が出たのである。

なお平均寿命全国一の北安曇郡松川村は「国民健康保険からの医療費負担額が 8500 万円減少した」と新聞は報じていた。松本市に、結果の出る、健康政策が欲しい。



ちょっとひとこと:山崎の水泳での減量作戦。毎日 1 時間の水泳。現在 5 kg 減。あと、2 kg。

山崎たつえの履歴 1940 誕生・新潟大学大学院修士課程修了・長野県職員、高校教師を経て 2007～2015.3 市議会議員 著書・論文多数。⇒ご支援をお願い出来ましたら幸いです。郵便振込 00540-3-80917 山崎たつえ 1000 円(上限)住所は 1p。誤字脱字等ありましたら、お許し下さい。又、お手数でも、ご連絡頂ければ幸いです。